

1 調査名称：（萩市）総合都市交通体系調査

2 調査主体：萩市

3 調査圏域：萩都市圏

4 調査期間：令和2年度

5 調査概要：

萩市においては、17路線、計画延長50,770mの都市計画道路を決定しており、そのうち、計画決定から30年以上経過した、長期未着手路線は7路線存在する。

令和2年3月に「萩市立地適正化計画」を策定したところであり、この度、長期未着手路線の見直しを行うことにより、コンパクトな市街地形成の推進を目指したものである。

見直し検討は「都市計画道路の見直し基本方針（平成18年3月）山口県土木建築部都市計画課」に基づき、「対象路線の抽出」「必要性の検証・評価」「見直し方針の策定」を行った。最新の既往文献及び交通量調査結果、将来交通量推計をもとに、都市計画道路における必要性の検証・評価、計画の存続・廃止の検討、見直し方針を策定した。

## I 調査概要

1 調査名称：（萩市）総合都市交通体系調査

### 2 報告書目次

1. 業務概要
2. 萩市の概況
3. 上位・関連計画
4. 都市計画道路の現況整理
5. 交通実態調査
6. 将来交通量推計
7. 対象路線の必要性の検証・評価
8. 見直し方針（案）の策定
9. 優先整備路線の選定
10. 廃止に向けた代替機能の検討
11. 見直し案の検討
12. 関係機関協議用資料作成

3 調査体制

委員会等の設置なし

4 委員会名簿等

委員会等の設置なし

## II 調査成果

### 1 調査目的

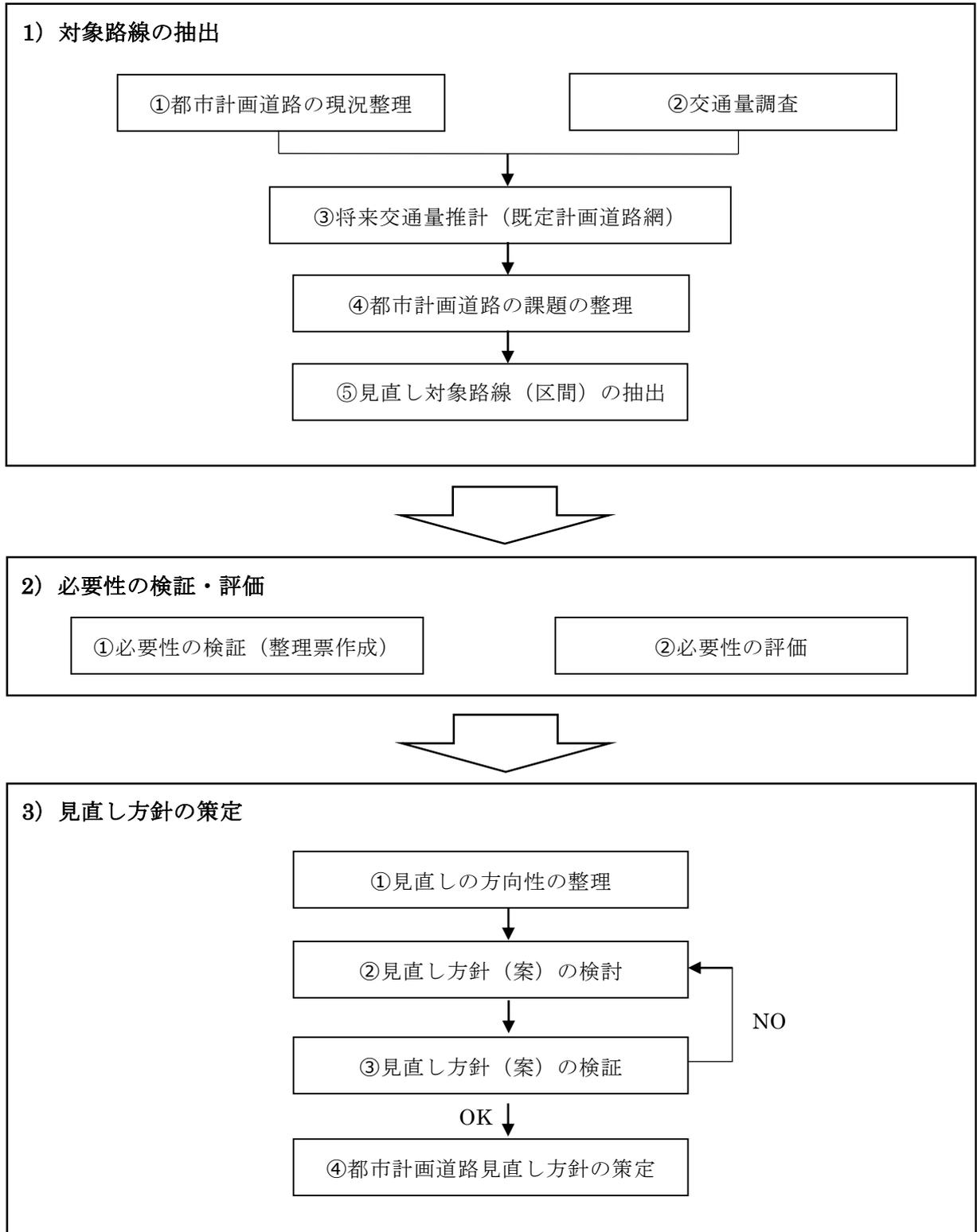
菟市においては、17 路線、計画延長 50,770m の都市計画道路を決定しており、これまで鋭意整備推進に努め、現在の整備率は約 61% となっている。

しかしながら、近年の少子高齢化に伴う経済の低成長、コンパクトな市街地形成への要求など、社会経済情勢が大きく変動する中、都市の拡大を前提としている都市計画道路の必要性に大きな変化が生じ、特に長期に亘る建築制限により民間開発を阻害し、都市計画への信頼性を低下させる要因となり得る長期未着手路線については、見直しを遅滞なく行う必要性が高まっている。

については、これらの課題への対応を図るべく、都市計画道路における必要性の検証・評価、計画の存続・廃止の検討、見直し方針を策定し、集約型都市等の実現に向けて都市計画道路の見直しを行うことを目的とする。

## 2 調査フロー

本調査は、「山口県の都市計画道路の見直し基本方針」に基づき、以下のフローのとおり実施した。



### 3 調査圏域図



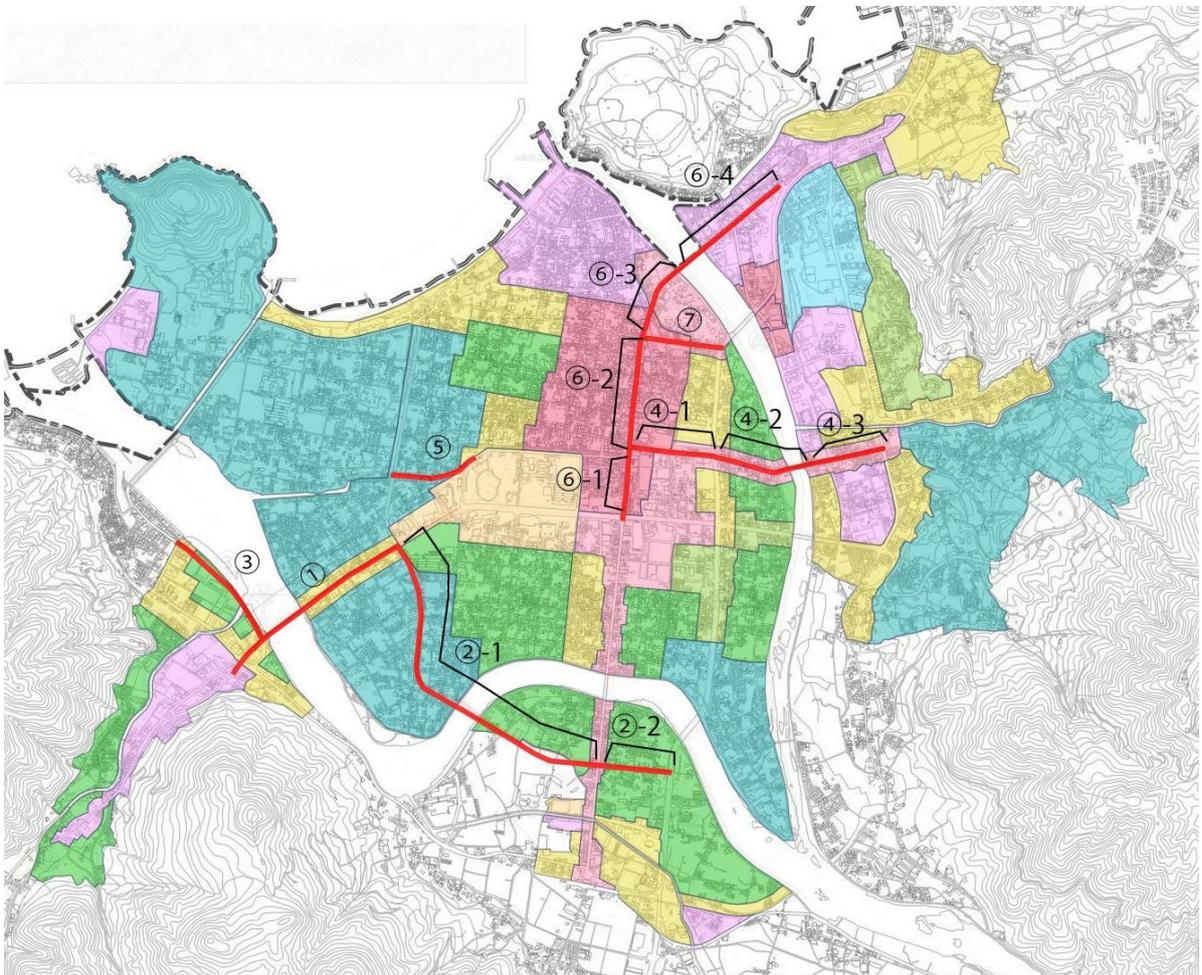
## 4 調査成果

## 1. 対象路線の抽出

・見直し対象路線は、都市計画道路の未着手の幹線街路のうち、山口県の都市計画道路の見直しに基づく抽出条件に合致する以下の7路線（13区間）を抽出した。

## ▼ 見直し対象路線の抽出結果

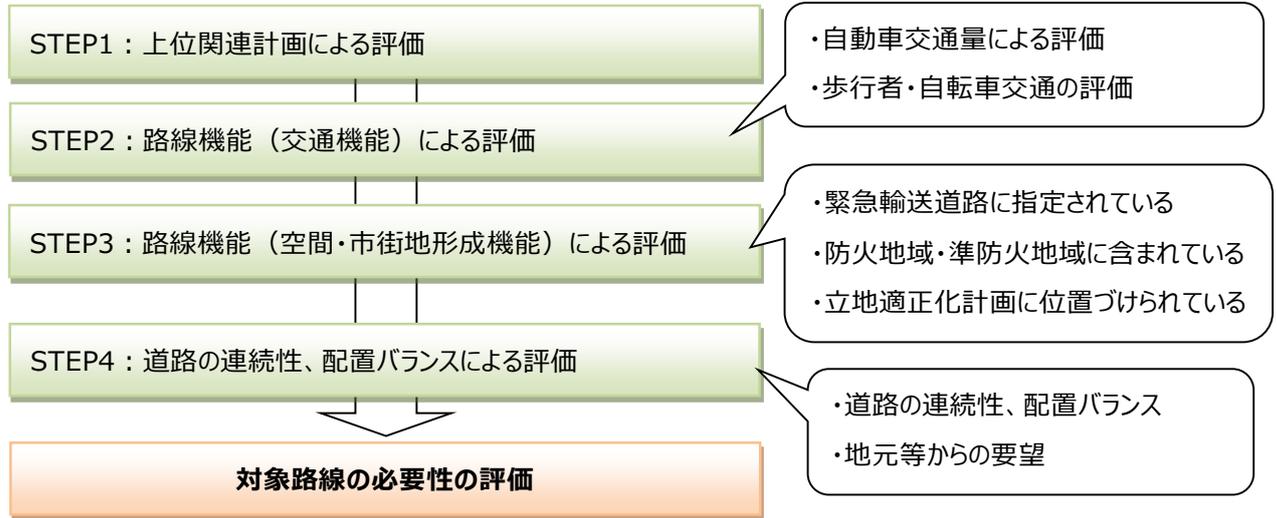
検討 区間番号	路線名称	都市計画決定	経過年数	延長 (およそ) m
①	玉江新川線	S45.7.17	51	840
②-1	今魚店金谷線	S45.7.17	51	1,780
②-2				370
③	土原菊ヶ浜玉江線	S45.7.17	51	570
④-1	東田町松本線	S45.7.17	51	360
④-2				400
④-3				360
⑤	南古萩唐樋線	S45.7.17	51	280
⑥-1	椿新川線	S45.7.17	51	360
⑥-2				530
⑥-3				360
⑥-4				540
⑦	今魚店土原線	S45.7.17	51	360



## 2. 必要性の検証・評価

・必要性の検証については、山口県の都市計画道路の見直し基本方針の必要性検証項目に基づき行った。

### 【必要性の検証】



### ▼必要性の評価結果（一次評価）

検討 区間 番号	路線名称	必要性の評価				必要性の検証結果※
		STEP1 上位計画	STEP2 交通機能	STEP3 空間機能 等	STEP4 連続性等	
①	玉江新川線	○ 区域 MP 都計 MP	○ 通学路	○ 居住誘導	-	<b>必要性あり</b> 上位,交通,空間に該当
②-1	今魚店金谷線	○ 都計 MP	-	-	-	<b>必要性あり</b> 上位,交通に該当
②-2			○ 通学路			
③	土原菊ヶ浜玉江線	-	-	-	-	<b>必要性なし</b>
④-1	東田町松本線	-	○ 通学路	○ 防火地域 居住誘導	○ 要望	<b>必要性あり</b> 交通,空間,連続に該当
④-2			○ 通学路			
④-3			-			
⑤	南古萩唐樋線	○ 都計 MP	-	○ 居住誘導	○ 連続性	<b>必要性あり</b> 上位,空間,連続に該当
⑥-1	樺新川線	-	○ 通学路	○ 防火地域 居住誘導	-	<b>必要性あり</b> 交通,空間に該当
⑥-2			○ 通学路		-	
⑥-3			○ 通学路		-	
⑥-4			-		○ 居住誘導	
⑦	今魚店土原線	○ 区域 MP	○ 通学路	○ 防火地域 居住誘導	-	<b>必要性あり</b> 上位,交通,空間に該当

※上位…上位計画    交通…交通機能    空間…空間機能等    連続…連続性等



### 3) 見直し方針案の策定

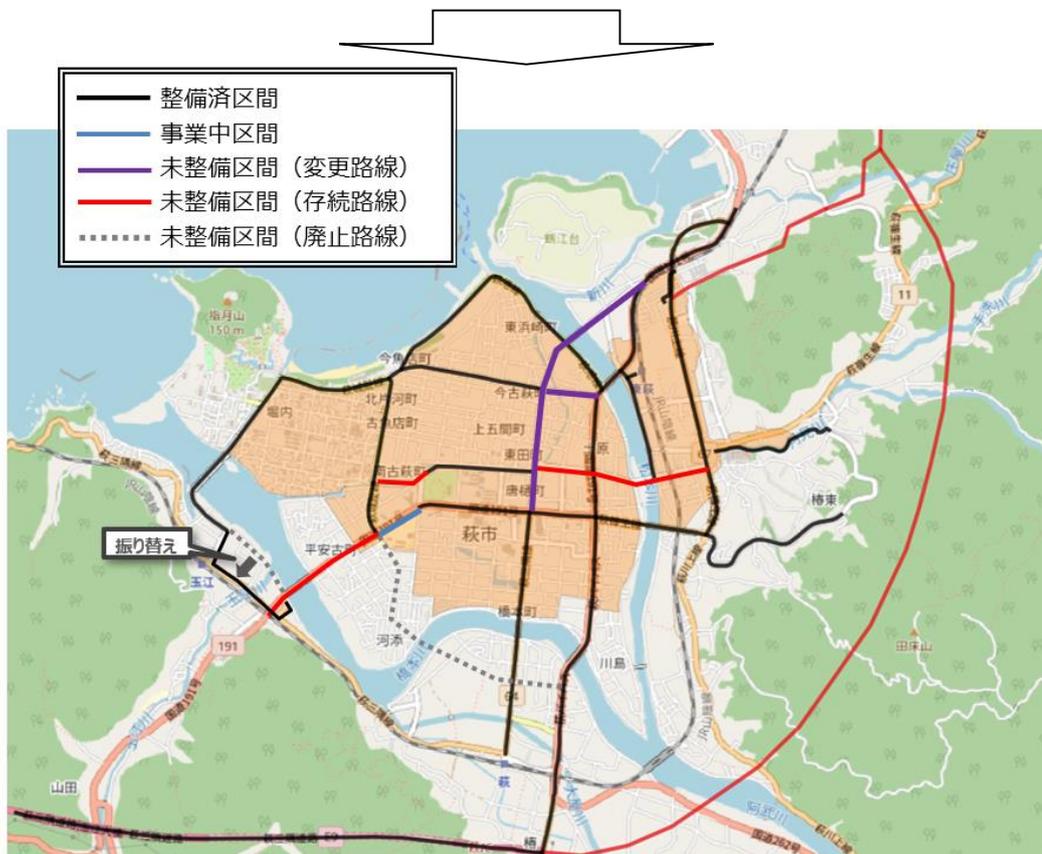
・以上より、交通需要、防災ネットワーク、歩行系ネットワーク及び幅員における検証を行い、都市計画道路の区間における見直し方針（案）を以下の通り策定した。

検討区間番号	路線名称	必要性検証の結果	道路網としての検証結果	幅員による検証	区間における見直し方針（案）
①	玉江新川線	<b>必要性あり</b> 上位計画, 交通機能, 空間機能等に 該当	幹線道路として上位計画へ位置づけられており、周辺には教育施設や観光拠点が存在する。歩行者・観光ネットワークの観点からも必要性が高いことから『 <b>存続路線</b> 』とする。	-	<b>存続路線</b>
②-1	今魚店金谷線	<b>必要性あり</b> 上位計画 に該当	防災・歩行ネットワークでの必要性は高いが、将来混雑度において交通需要はかなり低い値を示している。居住誘導区域外の区域であり、整備における工事・補償費が高額となることも想定されており、現状で整備の見通しも立っていないことから『 <b>廃止路線</b> 』とする。	-	<b>廃止路線</b>
②-2		<b>必要性あり</b> 上位計画, 交通機能に 該当			
③	土原菊ヶ浜玉江線	<b>必要性なし</b>	上位計画における位置づけはなく、現状で整備の見通しも立っていない。混雑度や防災・歩行者・観光ネットワークの観点からも必要性は低く、道路網としても現在のネットワークで十分であると判断され、代替路もあることから『 <b>廃止路線（振り替え）</b> 』とする。	-	<b>廃止路線 （振り替え）</b>
④-1	東田町松本線	<b>必要性あり</b> 交通機能, 空間機能等, 連続性等に 該当	現道が存在し、現状において交通機能は確保されていると考えられるが、周辺に学校が存在し、歩道も一部しか整備されていない。交通機能を確保しつつも歩行者ネットワークとしての機能強化が必要と考えられることから、『 <b>存続路線</b> 』とする。	-	<b>存続路線</b>
④-2		<b>必要性あり</b> 空間機能等, 連続性等に 該当			
④-3					
⑤	南古萩唐樋線	<b>必要性あり</b> 上位計画, 空間機能等, 連続性等に 該当	上位計画等の位置づけがあり、交通・空間機能、道路の連続性からみて必要性が高い。また、今魚店金谷線の一部区間が新規供用され、前後区間が整備されており、今後の「歩行者ネットワーク」、「観光ネットワーク」の機能が期待されることから、『 <b>存続路線</b> 』とする。	-	<b>存続路線</b>
⑥-1	樺新川線	<b>必要性あり</b> 交通機能 空間機能等 に該当	現道が存在し、現状において交通機能・空間機能等は確保されていると考えられる。一方で周辺に商店街等の都市機能が多数立地しているが、一部の歩道が整備されていない。また立地適正化計画における居住誘導区域であり、沿線土地利用においては、土地の高度利用がもたらされており、都市計画決定が都市機能の進出の妨げとなる事も考えられる。については、交通機能を確保しつつも将来的には歩行者ネットワークとしての機能強化が必要と考えられることから、『 <b>変更路線（幅員の見直し）</b> 』とする。	変更	<b>変更路線</b>
⑥-2					
⑥-3					
⑥-4		<b>必要性あり</b> 空間機能等に 該当			
⑦	今魚店土原線	<b>必要性あり</b> 上位計画, 交通機能, 空間機能等 に該当	上位計画等の位置づけがあり、幹線道路としての必要性が高い。ただし現道があり、現時点及び将来において、道路機能は十分確保されると考えられるものの、一部歩道の狭い箇所があり、歩行者ネットワークとしての整備が期待されることから、『 <b>変更路線（幅員の見直し）</b> 』とする。	変更	<b>変更路線</b>

「道路網としての検証」及び「幅員における検証」の結果、見直し方針（案）は以下のとおり。



▲都市計画道路網図（見直し前）



▲都市計画道路網図（見直し方針（案））